

# 胸痛について



# 痛み (疼痛) に関して

## 疼痛の種類

- 体性痛：鋭い痛み。主に体表への刺激により起こる痛み。局在がはっきりしている。
- 内臓痛：鈍い痛み。主に内臓が感じる痛み。局在はあいまい。腹膜の伸展や平滑筋の収縮などで起きる。
- 関連痛：内臓に刺激が加えられた際に、内臓と離れた皮膚表面や筋肉に特別な感覚や痛みを感じる。

## 原因による疼痛の分類

- 侵害受容器 (痛みを感じる場所) を介する痛み：外的刺激による痛み、炎症による痛み。  
→外的刺激を解除したり、炎症を抑えれば痛みは治まる。
- 侵害受容器を介さない痛み：神経障害性疼痛。触刺激を痛みと感じる。電撃痛、灼熱痛が特徴。  
→神経障害により脳・神経に様々な変化がおこる。不明な点も多く、疼痛管理が難しい。



体性痛

ここが痛い



内臓痛

ここらへんが痛い

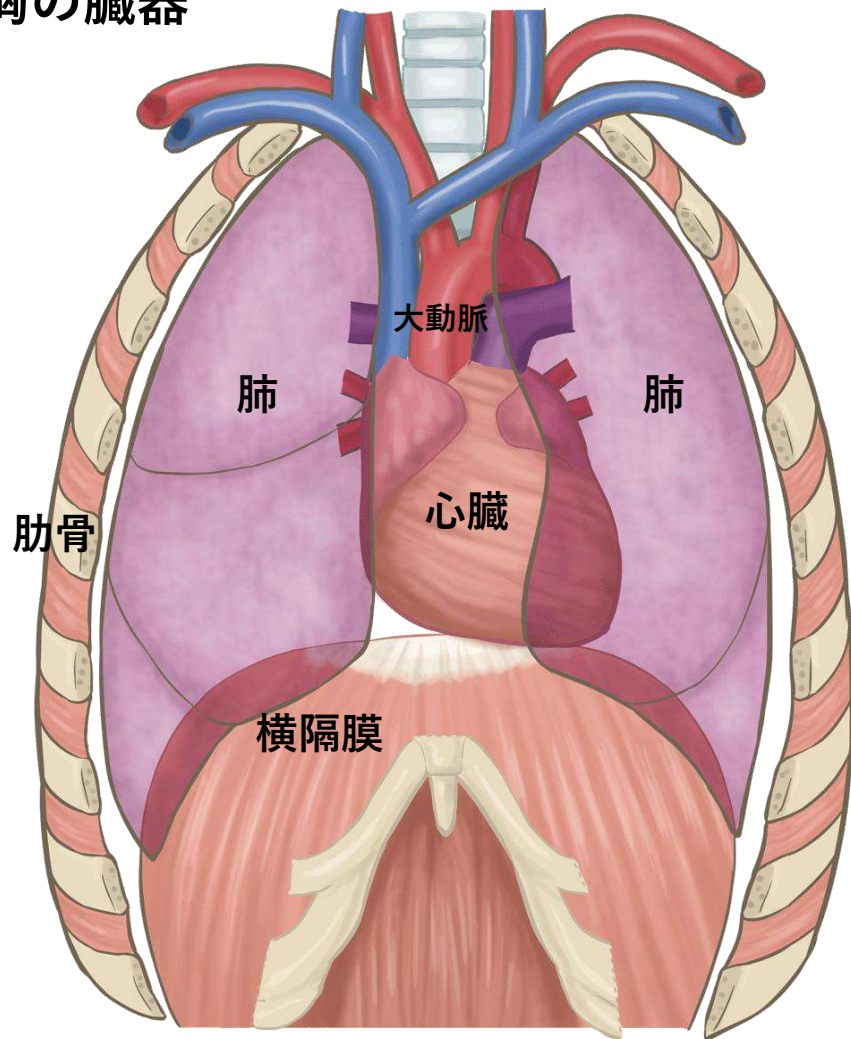


関連痛

(心臓、お腹の病気なのに)  
違うところが痛い

# 胸痛に関して大事なこと

## 胸の臓器



胸の臓器に何かがおこると胸痛が出る。

- ① **心臓**：心筋梗塞、狭心症、心タンポナーデ、心外膜炎
- ② **大動脈**：急性大動脈解離
- ③ **肺**：気胸、肺塞栓症、肺炎、胸膜炎
- ④ **食道**：逆流性食道炎、食道破裂
- ⑤ **肋骨などの骨や神経**：肋骨骨折、肋間神経痛、帯状疱疹
- ⑥ **乳房**：乳腺炎、乳癌
- ⑦ **横隔膜**：横隔膜ヘルニア

※ 胃、十二指腸、胆嚢、膵臓などの病気でも胸痛は起こりうる。

胸痛がある場合は胸の臓器の問題であることが多い。  
しかし、胸部以外の疾患も胸痛をおこすことがある。

# 胸痛の程度に関して

急いで医療機関を受診すべきかどうか(緊急性があるかどうか)を考える。

- ① 突然の胸痛や背部痛
- ② 持続する締め付けられるような胸痛
- ③ 動作後の、頻度が増えてきた胸痛
- ④ 心臓に持病がある方の胸痛
- ⑤ 嘔気、嘔吐、発汗などを伴う胸痛
- ⑤ 虚血性心疾患のリスクのある方の胸痛

※ リスク：高齢、高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満、喫煙、大量飲酒 など。

上記の胸痛が出現した場合はできるだけ早く医療機関を受診することをお勧めします。場合によっては緊急治療が必要になります。お薬手帳などを準備して来院して下さい。

※ もちろん気になる場合はいつでもどんな胸痛でも受診して下さい。

# 胸痛の診断の助けになるもの

胸痛の性状や環境をふまえて、様々な病気の可能性を考える。

## ① 胸痛の性状、状況に関して

- ・どんな痛みか（締め付けるような痛み、鋭い刺すような痛み、など）。
- ・いつから始まったか（急か、徐々に痛くなってきたか）
- ・ずっと痛いか、痛くない時間があるか。
- ・痛みの場所、痛いところは移動しているか。
- ・どんな時に痛いか（呼吸時、動作後、食事などで痛みがでるか）。
- ・他に症状はあるか（呼吸困難、発熱、冷や汗、嘔気、背部痛 など）。



## ② 胸痛をきたした環境に関して

- ・心当たりはあるか：飲み物、食べ物、運動した後か など。
- ・持病はあるか：手術後、心臓疾患の既往、生活習慣病 など。
- ・内服薬はあるか：痛み止め、血液がさらさらになる薬、胃薬、サプリメント など。
- ・喫煙や飲酒をしているか。
- ・精神的なストレスを感じているか。



# 胸痛に対する考え方 ①

まずは緊急性の高い疾患を除外する。治療が早ければ早いほど予後が良い。

分類	疾患名	治療に関して
<b>心血管系疾患</b> ※どのような胸痛でも必ず検査をしてこれらの疾患を除外する。	急性冠症候群（心筋梗塞、不安定狭心症）	緊急で冠動脈を拡げる治療が必要。
	心タンポナーデ	血圧が保てない場合は早期に治療が必要。
	急性大動脈解離	緊急で手術が必要な可能性がある。
<b>非心血管系疾患</b>	緊張性気胸	呼吸や血圧を保てなくなるため、緊急で治療が必要。
	肺塞栓症	呼吸や血圧を保てなくなるため、緊急で治療が必要。
	食道破裂	炎症、臓器障害が起こるため早期に手術が必要。
<b>胸部外の疾患</b>	急性胆嚢炎、急性膵炎	炎症、臓器障害が起こるため早期に治療が必要。

まずは上記の、緊急で治療が必要になる疾患を除外する必要があります。痛みの程度や性状で、ある程度鑑別は可能ですが、除外には検査が必要です。



# 胸痛に対する考え方 ②

痛みの性状ををふまえて、様々な疾患を考える。

① 胸の表面に生じる痛み (体性痛) : チクチクする、刺すような痛み。

肺の外側が原因であることが多い。

→ 肋骨骨折、肋間神経痛、帯状疱疹、乳腺炎、皮膚炎 などの病気。



② 胸の深いところに生じる痛み (内臓痛) : 胸が締め付けられるような、裂けるような痛み、圧迫感。

胸にある重要な臓器が原因であることが多い。

→ 心筋梗塞、狭心症、大動脈解離、肺塞栓症、食道破裂 などの病気。



③ 胸の臓器以外の原因で起こる痛み (内臓痛、関連痛) : 肩に放散される痛み、上がってくる痛み。

食道、胃、十二指腸、胆のう、膵臓 などの消化器が原因であることが多い。

→ 逆流性食道炎、胃潰瘍、胆のう結石症、急性胆嚢炎、急性膵炎 などの病気。



# 胸痛に対する考え方 ③

**痛みの特徴や併存する他部位の痛みををふまえて、様々な疾患を考える。**

- ① 息を吸った時に痛みが強くなる：胸膜性の胸痛（胸膜の炎症でおこる）である可能性がある。  
→ 胸膜炎、肺炎、肺塞栓症、気胸、心外膜炎、肋骨骨折 など。
- ② 胸痛に背部痛（背中痛み）を伴う：体の背中側の臓器に問題がある可能性がある。  
→ 大動脈、肺の背側、心臓の後壁、十二指腸、胆のう、膵臓 の疾患 など。
- ③ 食後や寝ている時にでる：消化器の病気である可能性がある。  
→ 逆流性食道炎、胆のう結石症、急性胆嚢炎、急性膵炎 など。
- ④ ストレスや不安による自律神経機能の乱れが原因で胸痛を引き起こす可能性もある。  
→ パニック発作 など。



# 必要な検査

- ① **心電図検査**：虚血性心疾患などを除外できる。場合によっては繰り返しの検査が必要。
- ② **血液検査(採血)**：虚血性心疾患などを除外できる。臓器機能、凝固能等を測定し臓器異常を見つける。
- ② **動脈血ガス検査**：呼吸状態を調べるために必要な検査。早急に治療が必要な場合を判断できる。
- ③ **胸部X線検査**：心臓、肺、血管などの胸部の異常臓器の推定が可能。
- ④ **心臓超音波検査**：体に侵襲がなく、心臓を観察可能。心臓の動きや水のたまりなどを評価できる。
- ⑤ **胸部CT検査**：客観的に胸の状況が分かる。設備のある比較的大きい病院でしか施行できない。
- ⑥ **腹部超音波検査、腹部X線検査**：胸痛の原因を検索するために胸部以外の検査も行う。

胸痛の原因を調べて最適な治療を行うには、胸痛の性状などの問診に加えて、検査が必要です。  
気になる症状がありましたら受診をお願いします。